

日本地理学会2023年春季学術大会

日本地理学会2023年春季学術大会は、2023年3月25日（土）～27日（月）に東京都立大学南大沢キャンパス（東京都八王子市）で行われた。筆者は、3月26日（日）午後の「人口・行動」セッションのプログラム作成を担当し、本セッションでは下記12本の報告が行われた。

- 大沼勇斗（筑波大・院）：汎エスニシティからみた東京大都市圏における外国人の居住特性
王 龍飛（大阪公立大・研）ほか：大阪市中央区南部のエスニック・ビジネスの集積要因—中国系店舗の事例に着目して
井上 孝（青山学院大）：全米小地域別将来人口推計ウェブマッピングシステムの公開
橋爪孝介*・三浦魁斗（うつのみや市政研究センター）：宇都宮市における少子化の進行と要因分析—類似都市との比較を中心に
小坪将輝*（東北大・院）・中谷友樹（東北大）：日本の市区町村別生産年齢人口の減少パターンの軌跡分析
草野邦明（群馬大）：東京都区部における高齢者人口集中地区の分布
本多一貴（立正大・学）：長野県御代田町における移住者の社会関係からみた定住化の進展
小原満春（和歌山大・客員研）：ライフスタイル移住者の帰還に関する研究—沖縄県の事例
堀本雅章（法政大）：八丈小島における無人島化への要因
永田彰平（東北大）ほか：人流変化を媒介した非薬物的介入の COVID-19流行への影響評価
畔蒜和希（無所属）：保育労働者のオンラインコミュニティと多様な働き方
杉山武志（兵庫県立大）：兵庫県の多自然居住地域をめぐる地域再生政策の転換とコミュニティ経済への影響

報告内容は例年以上に多岐にわたり、地理学界においても、より幅広い観点から人口問題に関心が寄せられていることがうかがわれた。

（小池司朗 記）

稲葉寿教授退職記念・竹内康博教授退職記念 with delay 研究集会 ～数理生物学・数理人口学・数理疫学～

2023年3月22日（水）、「稲葉寿教授退職記念・竹内康博教授退職記念 with delay 研究集会～数理生物学・数理人口学・数理疫学～」が東京大学駒場キャンパスで開催された。タイトルにある通り稲葉寿東京大学教授（当時）と竹内康博青山学院大学教授（当時）の定年退職を祝う記念集会である。～with delay というのは竹内教授をはじめとするいくつかのご両人に関する研究者たちが遅延型微分方程式を用いた人口・疫学モデルを研究している事から来る。稲葉先生は日本の数理人口学の第一人者であり、竹内先生は数理生態学および疫学の重鎮である。お二方とも筆者は学生時代から公私共にお世話になってきた。筆者はこの会の受付などを担当した。この記念集会では、お二人の先生の元学生から師匠（稲葉先生の師匠は O.Diekmann（現役））まで幅広い層が web と対面両方で参加した。内容はお二方の研究人生のテーマと業績、そして縁がある人たちによる共同研究の思い出などである。多くの関係者からの祝福はいかに稲葉先生と竹内先生が多くの人望によって支えられていたかがよく分かる集会となっていた。

（大泉 嶺 記）